

ほとけの 混和会だより

平成二十九年五月

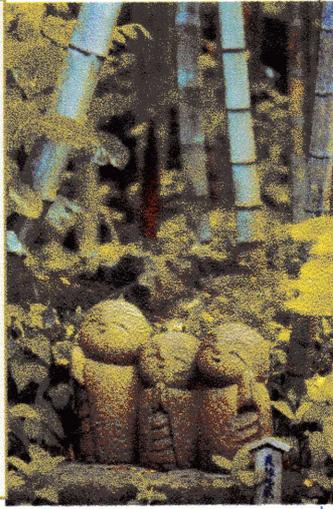
東光院

仏の混和会

第126号

人は、何の為に 生きているのかに

NO.4



このテーマも四回目となり、得た事は私達は仏に成る為に生きている。それは、この現実社会において、仏、いわゆる悟りの境地を求め、自ら菩薩として生きる事によって、真の幸が得られる。と言う事でした。

そこで今回は、菩薩として生きる心構え調べて見ました。

「たのしみや今の心が菩薩ならば
未来は仏うたがひもなし」

この詩は江戸時代の僧侶
日扇聖人の読まれた詩です。

今の心が菩薩となれば、未来は、
仏になること、疑いないことであり、
実に楽しみなことである。

と解りやすく、安心の抱ける
詩で御座います。

そこで、菩薩としての御心を
左記に印します。

- ・人を大事にしていく
- ・人の立場で物事を捉えていく
- ・人を思いやる
- ・人の幸を純粋に喜ぶ。

このように己を忘れて他の幸を願
う人を菩薩と言っております。

しかし、文字に書いたり、言葉で
言う事はたやすいのですが、実際
に行う事は大変難しいのが、この菩
薩の道であります。

私達はそれぞれの人生経験に
よって、様々な価値観を抱きます。

そして、その価値観に執着し、
とらわれ、「自我」いわゆる「エゴ」
を振りかざし菩薩の心どころか
自ら迷い苦しみを招いて居るのが
現実です。

しかし、その「自我」と言う己
の主張をいくら振りかざしても、

全て「無」であり「空」である実態
が無いと言う事が見えてくれば、
菩薩としての道が自然に開かれ
てくるのですが、所詮私達は人
間、相田みつをさんも「人間だも
の」と言っております。

完璧な菩薩には中々なれませ
ん、少しずつでも出来るところか
ら、菩薩の道を志、歩んで参りた
いと存じます。

合掌

色即空 空即色



ねーねーお坊さん、
般若心経の中に説か
れている「空」とか
「無」ってなんですか？



そうじゃな
「空」とはね、物事
全てが、変化を生じて
一瞬たりとも同じではありえないと
言う事なんじゃよ。

それは、私自身であったり、私達
の心であったり、又は形ある物であつ
たり、或いはこの地球も宇宙も全て
永遠なる物は何一つとして存在しな
いと言う事なんじゃよ。

仏教は、なんのためにあるのか、
と問えば、人間の根源的な苦を解
決し、これを取り越えて、人間がこ
の世に於いて人間らしい幸福を実現
させることにあるのじゃよ。

そこで、釈尊は苦しみを招く原因
を色々を調べたのじゃ、すると様々
な執着やとらわれから、自ら迷いや
苦しみを招いている事に気づかれた
のじゃよ。

そして釈尊は、この世の全ては移
ろい逝く、永遠なるものは何一つと
して存在しない。全ては「空」である。
「空」である事が現実である。

移ろい逝くものに執着することは
無意味である。と説いたのじゃよ。
しかし、いくら己の煩惱、この執

着心を捨てようと思っても捨てき
れるものでは無いのじゃ。

そこで「煩惱則菩提」すなわち
煩惱、執着心を否定するので無
く、コントロールする智慧によつて
人間、本来持つて居る欲望を、あ
るべき理想的な方向に向けて行く
為に「空」の概念が説かれたのじゃ。

更に釈尊は、私達の片寄つたも
のの見方や受け止め方によつて
も、苦しみや迷いを招く事がある
ことを知り、その対処方法とし
て、「無」の境地を示されたのじゃよ。

この「無」とは、物事を己の都合
の良いように受け止め、己の主観
を入れて、物事を見て判断し行
うので無く、大自然大宇宙の営み、
この純粋無垢の世界を自分の思い
を介入すること無く「あるがま
ま」に受け止めてあるがままに生
かさせて頂きなさいと言う事なん
じゃ。

ブツダとは、大自然大宇宙の生
命、その営み、その真理に目覚め
た人をブツダと言ひ、仏様と言つ
ているのじゃよ。その大自然の営
みそのものが御仏の導きであると
受け止めていくことが「無」の境地
なんじゃよ。

一切の出来事を御仏の導きと受
け止めて御仏に己を委ね「お任せ
する」御心が抱けたとき、自己に対
する執着心が薄らぎ、他の幸を願
う慈愛心が、芽生えてくるのじゃ
よ。共に努めて行こうね。 亮観拝



日本仏教に登場する仏様を、毎号少しずつご紹介。今回は如来部の薬師如来を紹介いたします。

如来部 薬師如来



国宝 奈良 元興寺
木造薬師如来像

お薬師さんの名で親しまれる薬師如来、正式名を『薬師瑠璃光如来』と言い、医学に関係した仏様で、極楽浄土(あの世)を司る阿彌陀如来に対して、薬師如来は現世(この世)での苦しみを取り除く仏様です。

「薬師」とはお医者さんの昔からの呼び名で、「瑠璃光」とは仏教の教えに登場する七つの宝(宝石)の一つとされ、薬師如来はこの宝石が散りばめられた「東方浄瑠璃界」という場所に居られることからその名が付いています。

その姿は、左手には何でも治す薬の入った薬壺を持ち、右手は施無畏(せむい)の印をしています。施無畏とは「一人の心から恐れを取り除く」という意味があります。

なぜ薬師如来がこの世の苦しみを取り除くのかというと、悟りを

開く際、どんな人でも悟りに導く。そのためには、仏教を信仰する人の煩惱・病氣・身体的苦痛・ストレス・プレッシャーなどを取り除く。更に餓えに苦しむ人には食事を。寒さに苦しむ人には衣服を与えるなど、生きていくうえで生じる苦しみを取り除き助ける。という内容の『十二の大願』という誓いの元、仏様になられたためです。

そのため、亡くなった人を救うというより、今生きている人に対して救いの手を差し伸べてくれる仏様として昔から人気を集め全国に広まりました。

現代社会においても病気の心配はつきません。特に現代はストレス社会とも呼ばれ、私も直ぐに胃が痛くなります。そんな時は気分転換も兼ねてお薬師さまの元へお参りに行ってみるのも良いかも知れませんね。

余談：ここ東光院に祀られているお薬師さまは、両手で薬壺を抱え持った珍しい姿をしています。もしよかつたら東光院のお薬師さまにも会いに来てください。

亮澄拝



行は いな まつ しり たを

四月九日(日曜)

お釈迦様の誕生会「はなまつり」を行いました。

当日は雨天となりましたが、本堂で、お勤めと紙芝居を観た後、



各々誕生仏へ甘茶をかけて献花をし、お蕎麦のご接待を頂いたり、恒例となつていくふくちゃん先生の科学教室やビーズポイントのバルーン教室にて楽しいひとときを過ごしました。参加された方、スタッフとして協力してくださった方々には心より御礼申し上げます。



ジャガイモの植えつけ

三月十四日、ジャガイモの種芋を畑に植えつけました。ジャガイモをはじめ自然環境下で栽培される作物は畑の場所や天候、土壌の状態により、収穫にばらつきが生じてしまい、毎年苦心しておりますが、今年もおいしいジャガイモを皆さんで分け合



うことができれば幸いです、日々有志の方々が管理を行つております。ジャガイモは白つばい花を咲かした後、梅雨の前後に収穫を迎えます。恒例の収穫会では、お子様の食育や利他の御心を養う場として、皆様のご参加を心待ちにしております。

総本山延暦寺の御修法に参加致しました

天台宗では、天皇の御衣を



加持し、玉体安穩、鎮護国家を祈る御修法(みしほ)という重要行事が比叡山延暦寺根本中堂において毎年行われております。御修法は密教形式の法要で行われ中堂内陣の一部を幕で覆い、座主親下をはじめとした高僧十数名を中心に厳修致します。一般人はおるか訪れる勅使ですら内部を覗くことはできませんが、今回その修法に手伝い方として参加させていただき、貴重な経験をすることができました。亮敬拝